

博士論文公聴会

「マダイおよびヒラメの成育場利用と 種苗放流技術に関する研究」

発表者：山田徹生氏（水産研究・教育機構水産資源研究所）

日時：2020年11月10日（火）13:00～

場所：生物生産学部 C314 講義室



本論文は、沿岸域の水産重要種であるマダイとヒラメについて、稚魚期の成育場における生態や漁獲加入との関係、種苗放流技術に関してまとめたものです。マダイとヒラメはどちらも我が国における栽培漁業（人工種苗を海に放流して、十分に成長してから漁獲すること）の対象種ですが、放流する場所で稚魚がどのような暮らしをしているのか、よく理解されないままに放流が進められています。山田氏は、マダイの人工種苗が放流後にどのような行動をとるのかを観察し、放流後のなわばり形成が重要な行動であることを明らかにしました。また、ヒラメの稚魚期における餌利用について全国的な知見の整理を行い、瀬戸内海では他の海域とは異なる餌利用の様式がみられることを明らかにしました。

本発表は、生物圏科学研究科及び統合生命科学研究科の共同セミナーの対象となります。

問い合わせ先：富山 毅（内線 7941） tomiya@hiroshima-u.ac.jp